

壺 阪 寺

平成27年(2015)10月
～平成28年(2016)1月行事予定

●10月

～11月30日迄 壺阪寺二大塔同時開扉

10月18日 観音ご縁日(眼病封じ祈願会・めがね供養会)

11:30 住職法話会

13:30 眼病封じ祈願会・めがね供養会・眼病封じ特別柴燈護摩

●11月

～11月30日迄 壺阪寺二大塔同時開扉

11月1日 マッサージ奉仕

11月18日 観音ご縁日

11:30 住職法話会

13:30 本尊法楽

11月23日 インド祭り

●12月

12月18日 観音ご縁日(納め観音)

11:30 住職法話会

13:30 納め観音法要・秘仏子島荒神像御開帳

12月31日 除夜の鐘

23:45 除夜の鐘・正月開帳法要

●1月

1月1日～3日 修正会(正月星祭り祈祷会 毎日2座厳修)

餅まき会(修正会終了後、本堂にて餅まきを行います)

新春福引き大会(空くじなし、豪華景品多数)

1月18日 観音ご縁日(初観音)

11:30 住職法話会

13:30 初観音法要(仏名会)・祈願餅供・真言の森お砂踏み参拝

1月10日～2月28日 本尊御前立秘仏厄除観音像御開帳



上空からみた奈良盆地



猛暑が続いて、少し涼しくなったと息をついた日本に、台風の影響の大雨が降りました。その大雨は川の堤防を破壊し、山を崩し、尊い人命を奪い、積み上げてきた家財、育ててきた稲を一瞬に奪い去ってしまいました。亡くなられた方々のご冥福をお祈りすると共に一日も早い復旧を願います。

大雨特別警報が発せられ、警戒を呼び掛けていましたが、大きな被害を出してしまいました。識者は、日頃からの防災意識の向上の必要性を強調されていますが、どうしても自分は大丈夫という根拠のない安心感を持ってしまい、それが被害拡大につながるかもしれません。重ねて識者は、災害に対する想像力の必要性を説かれます。どれだけの災害が起こるかもしれないと想像することは容易ではないかもしれませんが、大事な命を自分の判断で守らないといけません。ですから、難しくても想像力を磨きたいと思います。

磨くと言っても人間にとって、想像力とは何かとつい考えてしまいますが、情報の基づいた予測を重視する時代ですが、情報を見たり、聞いたりした時に、瞬時に色々な判断をすることができる力、そこには常に、情報を収集、分析することを続けていくことにより、養われる力も想像力というかもしれません。

何かに頼る、特に、現代人は、携帯、スマホといった携帯端末に何もかも頼るようになっていきます。初めて行く食べ物屋までも、スマホ頼り、友達の電話番号もすべてスマホや携帯にあって自分の頭には何もない。便利なものには間違いのないものですが、頼りにしすぎているのも事実です。頼りにし過ぎると自分の生きる力も奪われるように思います。自分で歩いて集める、自分の耳目で集める、学ぶ力を忘れてしまったような現代、手のひらサイズの便利な携帯端末が人間の大事な力の一つを奪い始めているのかもしれません。

眼のご不自由な方々の歩行のお手伝いをしていると踏み締めるように歩いて、道の形状を覚え、新しい道を歩く訓練をすると聞いたことがあります。自分の残されたあらゆる運動器官を使って歩いて、生きていく姿を拝見するたびに見えない道を自分の全知全能を使って想像力を振り絞りながら歩いていることを教えられます。

合掌 壺阪寺住職 常盤 勝範

編集後記

秋本番を迎え、朝晩の冷え込みも目立つようになってきました。福祉関連のニュースも耳を疑うような内容が連日報道され、我々も戸惑いや憤りを感じております。

さて、今号では施設が抱える、なかなか表立って出てこない様々な課題や取り組みをご紹介させて頂きました。今後も入居される方にとって、また働く職員にとってより良い環境づくりに努めていきたいと思ひます。

(鳥越)

発行・編集／お問合せ 南法華寺福祉事業後援会 つぼさか壺心会

〒635-0102 奈良県高市郡高取町壺阪3 電話:0744-52-2016 FAX:0744-52-3835

壺阪寺 <http://tsubosaka1300.or.jp/>(社福)壺阪寺聚徳会 <http://tsubosaka1300.or.jp/shutokukai>(一財)アジア・アフリカ国際奉仕財団 <http://www.aivjapan.org>

ホームページ

A I V だより

(一財)アジア・アフリカ国際奉仕財団
Asia Africa International Voluntary Foundation

インド、ロパ・ムドラ学校 新学年のスタートと修繕事業について



壁面は塗装がはがれるなどしています



給食後は自分達で食器を洗います

1

ロパ・ムドラ学校では 7 月より新しい学年がスタートしました。

そこで当財団の副理事長である常盤勝範住職が 7 月末に学校を訪問し、現状の課題や今後の運営について話し合いました。今回は理事だけでなく保護者や教員間での会議も行い、いろんな立場の方から現状を知ることができました。

学校は新学年がスタートし、現在 448 人（男子 224 人、女子 224 人）の生徒が通っています。去年に比べると生徒数が減っていますが、これは幼稚園の年中組にあたる新入生が少なかったことと進級せずに退学する生徒が数名いたためです。先生らによると、学校に来なくなる生徒のフォローやその後の経過をたどることは容易でないと言います。

一方で授業後の補習授業を全学年で行ったり、数年前から取り組んでいる日印音楽文化交流などの取り組みは、近隣の学校にはない特色があるという事で保護者から評価されています。今後はこのような取り組みを地域に紹介して生徒を増やしていきたいと考えています。

また今年度の取り組みとして、校舎の修繕事業を行う事になりました。特に老朽化している 5 部屋の床や屋根を修理する予定です。

引き続き、状況の報告など行っていく予定ですのでご支援・ご協力賜りますようお願いいたします。

聚徳会だより

『各施設で考えていること、検討していること』

壺阪寺聚徳会の施設は、国、県などの公共団体からの補助金と皆様からのご浄財によって建てられ、その中で、多くの方々が職員の手を借りながら、生活を営んでおられます。それらの建物を設計する際には、視覚に障がいを持たれている方や体の不自由な方々が出来るだけ自立して生活できて、生活を楽しめるようにと考えられましたが、その人それぞれの身体的衰え、予期せぬ疾病にも対応するには職員は利用する方々に寄り添う大きな心、建物にも設計段階になかった要素が求められております。それらの問題と問題解決に向けて行った活動・修繕事業を紹介させて頂きました。

特別養護老人ホーム 光明園

光明園は創立 34 年目を迎え、様々な場所が痛んでまいりました。修繕が早急に求められる場所（屋根の補修）もあるので、対応してまいりたいと思います。

34 年前のコンセプト（考え方）で建てられたホームですので、最近のそれとは違うかもしれませんが、家庭の雰囲気を感じ出せるようなホーム作りを目指しながら、介護を必要とする方々に適切な対応が出来るような設備更新等の計画を立案していきたいと思っています。

副施設長 鳥越信孝



壁紙クロスの剥がれや破れ



雨漏りによる天井のしみ

2

聚徳会だより

特別養護老人ホーム 第二慈母園

『第二慈母園での修繕について』

第二慈母園は、開設以来 15 年目を迎えていますが、斑鳩町の中でも、地域の拠点となるべく活動し、災害時の避難場所の 1 つとしても認知されています。

最近経年による建物設備に修理、修繕が必要となっています。

その中で、給排水設備の老化は注意を要すると思っております。

調理等に使う給排水、入浴時の給湯など、第二慈母園の利用される方々の日常生活に欠かせない大事な水と暖かいお湯を担う設備ですので、綿密な修繕計画を立案してまいりたいと思います。

生活相談員 大西 宏則



ボイラー設備



給水タンク

養護盲老人ホーム 慈母園

「伝えたい努力・頑張り！」について

近年、慈母園では、ご利用者の高齢化が進み、車椅子を使われる方が増えています。そのため、食堂では、テーブル間の間隔が狭くなり、席への移動の際に体がぶつかってしまい、お互いに気を遣い合いながらの食事となっていました。ご利用者の方々からも、「ゆっくり食事がしたい」「左右や後ろの方との間隔が狭くて気を遣う」など、食堂スペースに関する意見が多く挙がりました。

そこで、職員が知恵を絞り、色々なアイデアを出し合い、ご利用者の要望に少しでも応えられるように努めました。

1 つ目は、食堂横のテラスの一部分を改良し、「食堂スペース」を拡張しました。10 名ほどの方に、テラスで食事を召し上がっていただくことができ、食堂内の空間にゆとりが生まれ、6 人掛けのテーブルを、約 4 ～ 5 名で、ゆったりと使用していただけます。また、環境整備として、安心して出入りできるよう、食堂とテラスとの床の段差をなくし、エアコンと遮光カーテン、プライバシーに配慮して、レースのミラーカーテンの取り付け工事を行いました。

2 つ目は、机と椅子について検討しました。ご利用者の方の高齢に伴い、嚥下機能も徐々に低下してきます。正しい姿勢で食事を摂らなければ、喉に詰める危険性が高くなります。そこで、改めて、今のご利用者の状態にあった机と椅子の見直しを行いました。そして、高さの調節ができる机と、小柄な方が、深く腰を掛け、しっかりと足を床につけて食べることのできる低い椅子の購入を検討し、デモ用の机と椅子をレンタルしました。

実際にご利用者の方に使っていただき、感想を伺ったところ、「机・椅子どちらも使いやすい。早く食堂に入れてほしい」と好評でした。

私たちは、「食堂スペースの拡張」と「体型にあった机と椅子」により、食事環境が向上し、ゆっくり・楽しく・安心して食事を摂っていただけると期待しております。

支援員 田野上 剛



拡張したテラス



テラスでの食事の様子

聚徳会だより

障害者支援施設 明日香園

「高齢者への対応」トイレの現状について

現在、明日香園は高齢化の課題を抱えています。20歳から86歳まで、平均年齢は53.1歳となっています。また、知的障害に加え視覚障害、肢体不自由、聴覚障害、言語障害と全体の4割の利用者が他に障害を併せ持つ状況です。移動に車いすを利用する利用者も年々増加しています。

利用者の方々の高齢化が進んでいく中で、早急に改善が求められ、また、将来のことをよく考えて改善を行いたい設備として、トイレ設備があります。当園のトイレは、開園当初から設置された設備ですので、利用者の高齢化、障害特性に十分応えられておりません。そのため、利用者、職員の大きな負担になっております。トイレへの出入り口の改良、洋式トイレの増設により、利用しやすいトイレ、介助しやすいトイレを考えていきたいと思ひます。

主任 江本 好隆



トイレ内の様子



スイングドア式トイレ

養護盲老人ホーム 五色園

「伝えたい努力・頑張り！」 自信をもって頂くサポート

盲老人ホームをご利用される方の理由の一つに、いつか全盲になってしまうかもしれないという不安から施設に入居される場合があります。

しかし、心の準備をしていたご利用者が、いざ現実になった時に、それが発端となり気力が無くなったり、食欲不振になったり、もの忘れや要介護状態になられる場合があります。

ある経験の一つを例に、私たち職員はそういった状況の時に、こつこつと丁寧に、ご利用者の心のサポートを中心に、毎日の生活の支援、医療面、食事のコントロール等をサポートすることで、以前と同じように、施設生活を楽しまれるようになり、またボランティアや他のご利用者を気に掛けて頂けるまで回復することができました。

そして以前は、毎年お参りに行っていた壺阪寺にも、ご本人の強い希望から、お参りすることが出来ました。このように少しずつご利用者の希望に添いながら、その方が『出来る』とか、『出来た』という自信を少しずつ持つて頂くことが、その方の、心と身体の回復につながる事が実感できています。

そういったご利用者との経験は、結果、私達職員にも自信を運んで頂いた事となり、貴重な経験を頂けたと職員一同感じています。

課長 新田 良



壺阪寺へ



ボランティア作業をしていただけるまで元気になりました